

## 『スラヴ研究』ほかスラヴ研究センター和文出版物の引用注の様式

### 1. 日本語文献の表記

#### ■項目の並び順

- ・ 書籍 著者名『書名』発行所名、刊行年、引用頁。
- ・ 書籍掲載論文 執筆者名「論文標題」編者名『書名』発行所名、刊行年、引用頁。
- ・ 雑誌掲載論文 執筆者名「論文標題」『雑誌名』巻号、刊行年、引用頁。
- ・ オンライン文献 執筆者名「標題」[URL] 閲覧日。

#### ■注意点

##### 項目間の区切り

・括弧の前後には読点等を入れない。複数の文献を続けて引用する場合は、セミコロン[;]を用いる。引用頁が連続していない場合には、半角コンマ+スペース[, ]で区切る。

##### 著者名など

- ・複数の著者がいる場合には、読点[, ]でつなぐ。
- ・訳者名は原著者名の後に丸括弧でくくって記入する。
- ・シリーズもので全体の編者と各巻の編者がいる場合は、引用する巻の編者だけ書けばよい。

##### 書名・論文名

- ・本題と副題の区切りにはコロン[:]を用いる。
- ・シリーズの一部として出版された本の場合、シリーズ名と巻数は丸括弧( )で囲み、二重鍵括弧『 』内に書名に続けて記す。
- ・単著の中の章を引用する場合、原則として章名を書かず、章番号または引用頁を表記するだけでよいが、作品集などで特に作品名を明示する必要がある時は、書籍掲載論文に準じて表記する。

##### 発行所名

- ・発行地名は不要。
- ・文庫・新書の場合は、発行所名のかわりに文庫・新書名を書く。
- ・雑誌の場合は原則として発行所名は不要だが、同名の雑誌が複数ある場合や、所蔵する図書館が少なく検索しにくい雑誌の場合は、丸括弧に発行所名を入れて雑誌名の後に書く。

##### 刊行年

- ・原則として西暦を用いる。
- ・原著・原作の刊行・発表年を書く必要がある時は、丸括弧に入れて併記してもよい。

##### オンライン文献

・オンライン文献の引用が多く、閲覧(アクセス)日を逐一記入するのが煩瑣な場合は、オンライン文献を初めて使う際の注に、「以下、URLは特記以外〇年〇月〇日現在有効」のように書いてもよい。

### 同じ文献の2度目以降の引用

・前に挙げた文献を再び引用する場合は、著者(または編者)の姓と、書名(または論文表題)の簡略形、引用頁を記す。複数の著者・編者がいる場合、1人目の姓のみを挙げて「ほか」とつける。書籍・雑誌掲載論文の場合、書名・雑誌名は省き、論文表題の簡略形のみを書けばよい。

・「前掲書」「前掲論文」というような書き方はしない。同じ文献を続けて引用する時は「同上」としてもよい。初出の箇所が離れていて、読者にとって探しにくいと予想される場合は、(前注 8 参照)のように付記する。

## ■表記の例

### 単著

塩川伸明『民族と言語(多民族国家ソ連の興亡 I)』岩波書店、2004年、82-85, 95-97頁。

村上春樹『ノルウェイの森(上)』講談社文庫、1991年、68頁。

西川長夫『国境の越え方: 国民国家論序説(平凡社ライブラリー380)』増補版、平凡社、2001年、20-26頁。

### 共著

糸井重里、村上春樹『夢で会いましょう』冬樹社、1981年、31-36頁。

### 翻訳書

エマニュエル・トッド(石崎晴己訳)『帝国以後: アメリカ・システムの崩壊』藤原書店、2003年、146頁。

アンドレイ・プラトーノフ(原卓也訳)「三男」『プラトーノフ作品集』岩波文庫、1992年(原作発表1936年)、223-233頁。

### 書籍掲載論文等

上垣彰「国際収支と資本移動」久保庭真彰、田畑伸一郎編『転換期のロシア経済: 市場経済移行と統計システム』青木書店、1999年、160頁。

アイザイア・バーリン(生松敬三訳)「二つの自由概念」バーリン『歴史の必然性』みすず書房、1966年、3-96頁。

### 雑誌掲載論文等

菊田悠「変化の中の『伝統』解釈と実践: ポスト・ソヴィエト期ウズベキスタンの陶工の事例より」『アジア経済』46巻9号、2005年、42-61頁。

岩下明裕「『北方領土問題』をいかに解決するか: 中ロ国境問題からの教訓」『しゃりばり』(北海道総合研究調査会)285号、2005年、59-63頁。

### 新聞論説(ニュース記事の場合は紙名と年月日だけでよい)

和田春樹「呼び名に潜む大きな溝:『東北アジア』か『北東アジア』か」『朝日新聞』2003年11月11日夕刊。

### オンライン文献

村上春樹「共生を求める人々、求めない人々:映画『A2』をめぐる」

[<http://news.kyodo.co.jp/kyodonews/2002/aum/>] 2006年3月22日閲覧。

『平成 17 年版防衛白書』[[http://jda-clearing.jda.go.jp/hakusho\\_data/2005/w2005\\_00.html](http://jda-clearing.jda.go.jp/hakusho_data/2005/w2005_00.html)] 以下、URL は特記以外 2007 年 4 月 2 日現在有効。

### 2度目以降の引用の例

塩川伸明『民族と言語』第2章第1節。

糸井ほか『夢で会いましょう』40頁。

菊田「変化の中の『伝統』」(前注5参照)45頁。

## 2. ラテン文字文献の表記(他の文字の文献をラテン文字に翻字する場合を含む)

### ■項目の並び順

- ・ 書籍 著者名, *書名イタリック* (発行地: 発行所名, 刊行年), p.またはpp. 引用頁.
- ・ 書籍掲載論文 執筆者名, “論文標題,” 編者名, ed.またはeds., *書名イタリック* (発行地: 発行所名, 刊行年), p.またはpp.引用頁.
- ・ 雑誌掲載論文 執筆者名, “論文標題,” *雑誌名イタリック* 巻数, no. 号数 (刊行年), p.またはpp. 引用頁.
- ・ オンライン文献 執筆者名, “標題” [URL] 閲覧日.

### ■注意点

#### 項目間の区切り

・項目間の区切りにはコンマ[, ]を用いる。複数の文献を続けて引用する場合は、半角セミコロン[; ]を用いる。

#### 著者名など

- ・著者・編者名は原則としてフルネームで書くが(ただし父称やミドルネームは省略するかイニシャルにする)、旧ソ連諸国などの出版物でフルネームが分からない場合は、名・父称のイニシャルを用いてもよい。
- ・日本人・中国人・韓国人の著者・編者名は姓・名の順で書き、初出の際は姓の2文字目以降を小型英大文字とする。ただし主に英語圏で活動する著者等は、名・姓の順としてもよい。ハンガリー人の姓名はどちらの順序で書いてもよいが、1つの原稿の中での表記法は一貫させること。
- ・旧ソ連諸国で出版された書籍で、編者名がタイトルページに書かれていない場合は、特に必要がない限り、他のページから編者名を拾わなくてよい。

## 書名・論文名

- ・英語以外の言語での大文字・小文字の使い分けは原語に従う。
- ・章の引用については日本語文献表記の注意点を参照。

## 発行地・発行所名など

- ・発行所・発行地が複数ある場合は、原則として1番目に表記されているもののみを書く。
- ・旧ソ連・東欧諸国の書籍の場合、特に必要がなければ発行所名は省き、発行地のみを書く。
- ・発行地は英語式に表記する(St. Petersburg, Warsaw など)。なお、編者や頁も ed., pp.などで示し、red., S.などとししない。
- ・学位論文の表示は、英語圏のものは PhD diss.、旧ソ連圏のものは Dissertatsiia...などの原語をそのまま翻字する形で、学位を授与した大学名(旧ソ連圏の場合は所在地)の前に入れる。

## 巻数・号数・頁数

- ・雑誌の巻数には vol.を付けないが、号数には no.を付ける。ロシアの雑誌によくあるように刊行年が巻数の代わりになる場合は、年を巻数の位置に書く。雑誌名と巻数の間にはコンマを入れない(年の場合は入れる)。
- ・シリーズものの書籍の巻数は vol.または no.で表す。ロシア語のシリーズものも原則として vol.で表すが、tom, chast', knigaなどをそのまま表記してもよい(小文字で、省略形を使わない)。
- ・複数の頁を引用する場合は、引用頁が連続していなくても pp.を使う。頁数の十桁・百桁・千桁は省略しない。

## オンライン文献

(日本語文献表記の注意点を参照)

## 同じ文献の2度目以降の引用

- ・日本語文献の場合に準じた方式を用い、op. cit.は使わない。同じ文献を続けて引用する時は Ibid.としてもよい(tam zhe などとは書かない)。

## ■表記の例

### 単著

Benedict Anderson, *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*, rev. ed. (London: Verso, 1991), p. 165.

Sandzhar Asfendiarov, *Istoriia Kazakhstana (s drevneishikh vremen)* (1935; repr., Alma-Ata, 1993), pp. 159–170.

### 共著・資料集等

Marlène Laruelle and Sébastien Peyrouse, *Les Russes du Kazakhstan: Identités nationales et nouveaux États dans l'espace post-soviétique* (Paris: Mazonneuve et Larose, n.d.), pp. 150, 157.

*Svod zakonov Rossiiskoi Imperii*, 2nd ed., kniga 1 (St. Petersburg, 1913), p. 1165.

## 編書掲載論文

Daniel R. Brower, “Islam and Ethnicity: Russian Colonial Policy in Turkestan,” in Daniel R. Brower and Edward J. Lazzerini, eds., *Russia's Orient: Imperial Borderlands and Peoples, 1700–1917* (Bloomington: Indiana University Press, 1997), pp. 115–135.

IEDA Osamu, “Post-Communist Nation Building and the Status Law Syndrome in Hungary,” in Zoltán Kántor et al., eds., *The Hungarian Status Law: Nation Building and/or Minority Protection*, Slavic Eurasian Studies, no. 4 (Sapporo: Slavic Research Center, 2004), p. 45.

G. S. Vasil’eva, “Nas okruzhali khoroshie liudi,” in *My – iz vyslannykh navechno* (Elista, 2004), p. 329.

## 雑誌掲載論文

Nancy M. Wingfield, “The Politics of Memory: Constructing National Identity in the Czech Lands, 1945 to 1948,” *East European Politics and Societies* 14, no. 2 (2000), pp. 246–247.

E. D. Chermenskii, “Zemskoe liberal’noe dvizhenie nakanune revoliutsii 1905–1907 gg.,” *Istoriia SSSR*, 1965, no. 5–6, p. 157.

## 学位論文

John F. Young, “Local Government and the Russian State: The Quest for Local Self-Government” (PhD diss., University of Toronto, 1997), pp. 34–55.

A. L. Iurganov, “Politicheskaia bor’ba v gody pravleniia Eleny Glinskoi, 1533–1538 gg.” (Avtoreferat dissertatsii na soiskanie uchenoi stepeni kandidata istoricheskikh nauk, Moscow, 1987), p. 18.

## ワーキング・ペーパー

Raomo Blom, ed., *Expert Interviews from the Baltic States* (Tampere: Department of Sociology and Social Psychology, Working Papers, B:37, 1997), p. 9.

## アーカイブ資料(アーカイブ名は、2 度目以降は略号のみでよい)

RGIA (Rossiiskii gosudarstvennyi istoricheskii arkhiv), f. 1276, op. 11, d. 89, ll. 322–331ob.

## 新聞記事

Aleksei Krashakov and Ekaterina Gurkina, “IuKOSu zapretili rasprodazhu,” *Nezavisimaia gazeta*, 31. 03. 2006. [March 31, 2006. のように書いてもよい。英語以外の月名は使わない]

## オンライン文献

Government Decree 90/1992 (V.29), “On the Government Office for Hungarian Minorities Abroad” [<http://www.mfa.gov.hu/NR/rdonlyres/CD0972C6-5D3D-40C7-97B6-98DCD09FE037/0/HTMHa.htm>] (2005年12月22日閲覧).

V. Iu. Sofronov and E. L. Savkina, “Deiatel’nost’ protivomusul’manskoï missii v Tobol’skoï eparkhii” [[http://www.zaimka.ru/08\\_2002/sofronov\\_mission/](http://www.zaimka.ru/08_2002/sofronov_mission/)] 以下、URLは特記以外2006年1月10日現

在有効。

## 2度目以降の引用

Anderson, *Imagined Communities*, chap. 10.

Laruelle et al., *Les Russes du Kazakhstan*, pp. 170–178.

Ieda, “Post-Communist Nation Building,” (前注 6 参照) p. 33.

## 3. キリル文字文献の表記(翻字しない場合)

### ■項目の並び順

- ・ 書籍 *イタリックで著者姓と名・父称のイニシャル*. 書名. 発行地, 刊行年. C. 引用頁.
- ・ 書籍掲載論文 *イタリックで執筆者姓と名・父称のイニシャル*. 論文標題 // 書名 / Под ред. 編者姓名の生格. 発行地, 刊行年. C. 引用頁.(編者名は必須ではない)
- ・ 雑誌掲載論文 *イタリックで執筆者姓と名・父称のイニシャル*. 論文標題 // 雑誌名. 刊行年. No. 号数. C. 引用頁.
- ・ オンライン文献 *イタリックで執筆者姓と名・父称のイニシャル*. 標題 [URL] 閲覧日.

### ■注意点

ラテン文字文献の表記法とは以下の点異なる。

- ・書名ではなく執筆者名をイタリックにする(ただし編者名はイタリックにしない)。
- ・執筆者名は姓と名・父称のイニシャルで示す。ただし姓より名の方が有名であるなど特殊な場合は、名を略さずに書き姓の前に置いてもよい。
- ・ラテン文字文献の項目間の区切りはコンマが基本だが、キリル文字文献の場合はピリオドが基本。ただしダブルスラッシュやスラッシュの前にはピリオドを置かず半角スペースのみとし、発行地と刊行年の区切りにはコンマを使う。また複数の著者名の間には **и** ではなくコンマを置く。
- ・発行地と刊行年を丸括弧でくることはしない。発行所名は、特に必要がない限り省く。
- ・発行地の一部(モスクワ、サンクト・ペテルブルグ、レニングラード)、巻数を示す **Т.**や **Ч.**、および学位論文の表示には略号を用いる。
- ・頁数を示す **C.**は大文字。
- ・原典で旧正書法を用いている場合、原則として現行の正書法に改める。

その他の点はラテン文字文献の表記法に準じ、同じ文献の2度目以降の引用の際には **Указ. соч.** ではなく著者姓と標題の簡略形を書く。同じ文献を続けて引用する時に **Там же** を用いるのは可。

### ■表記の例

#### 単行本・資料集等

Голубинский Е.Е. История русской церкви. Т. 2. Ч. 1. М., 1900. С. 394–413.

Свод законов Российской Империи. 2-е изд. Кн. 1. СПб., 1913. С. 1165.

#### 編書掲載論文

Боханов А.Н. Сергей Юрьевич Витте // Российские реформаторы (XIX–начало XX в.) / Под ред. А.П. Корелина. М., 1995. С. 125–127.

#### 雑誌掲載論文

Черменский Е.Д. Земское либеральное движение накануне революции 1905–1907 гг. // История СССР. 1965. № 5–6. С. 157.

#### 学位論文

Юрганов А.Л. Политическая борьба в годы правления Елены Глинской (1533–1538 гг.): Автореф. дис. ... канд. ист. наук. М., 1987. С. 18

#### アーカイヴ資料(アーカイヴ名は、2度目以降は略号のみでよい)

РГИА (Российский государственный исторический архив), ф. 1276, оп. 11, д. 89, л. 322–331об.

#### 新聞記事

Крашаков А., Гуркина Е. ЮКОСу запретили распродажу // Независимая газета. 31. 03. 2006.

#### オンライン文献

Софронов В.Ю., Савкина Е.Л. Деятельность противомусульманской миссии в Тобольской епархии [[http://www.zaimka.ru/08\\_2002/sofronov\\_mission/](http://www.zaimka.ru/08_2002/sofronov_mission/)] (2006年1月10日閲覧).

#### 2度目以降の引用

Черменский. Земское либеральное движение. С. 157.

Софронов и др. Деятельность противомусульманской миссии (前注 3 参照).